

物質の科学演習

科目責任者：奥 田 竜 也（基盤教育部門（化学））

I. 前文

第1学年の必修科目である「物質の科学」では、第2学年に開講される「生理学」や「生化学」等の内容にも繋がる物理化学の基礎を学ぶ。奥田担当分の授業（第2回～10回）では、それ以降の授業内容を理解する上でも重要な基本事項の学習となる。高校課程で物理の履修が十分でない、あるいは物理に自信が無い学生にとってはやや難解な内容であるため、授業進度に合わせた演習や更に詳細な解説等によって内容の理解を深め、以降の学習へ繋げることを目的としている。

II. 受入可能人数

特に人数制限は設けない。物理の履修が十分でない、あるいは物理に自信が無い学生は是非受講してもらいたい。また、学期の途中からの受講希望者も歓迎します。

III. 担当教員

奥 田 竜 也（基盤教育部門（化学））

IV. 学習内容

「物質の科学」の授業時間内に理解できなかった箇所の解説および授業に即した演習問題等。

※疑問点、理解できなかった点等は、明確にした上で本科目に臨むようにしてください。

本科目は木曜の午後に実施することを基本としますが、健康診断等のスケジュールとの兼ね合いもあるため、詳細は受講する学生のみなさんと相談の上で確定します。

V. 学修の到達目標

必修科目「物質の科学」の内容理解を深め、成績向上に繋げられる。

VI. 成績評価の方法・基準

出席状況、受講態度、および簡単な確認問題等によって評価します。

VII. 使用する教材・資料など

基本的に「物質の科学」で使っている教科書、授業中の配付資料を教材として用います。必要に応じて追加資料の配付も行います。

VIII. 質問への対応方法

随時対応しますが、事前にメール等でアポイントメントを取ってもらう方がより確実です。

E-mail : okuda@dokkyomed.ac.jp

IX. 求められる事前学習、事後学習

事前学習として直近の物質の科学の授業内容を10分程度で見直し、疑問点を明確にしておくこと。事後学習が必要無くなるよう各授業内で解決するつもりで取り組んでください。

X. コアカリ記号・番号

A-2-2) 学修の在り方

A-9-1) 生涯学習への準備

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

科目の性質上、レポートを課したり試験を行ったりすることは無いが、演習問題等については基本的には受講者全体に対して講評を行う。必要に応じて個別対応を行うこともある。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	